福岡

口腔医学の国際シンポ開催

口腔(こうくう)医学の現状と将来について専門家が研究成果を発表する国際シンポジウム（福岡歯科大など主催、読売新聞西部本社など後援）が4日、福岡市・天神のアクロス福岡国際会議場で行われた。

近年、全身疾患と口腔疾患との関連性が指摘されるようになっており、国際的な取り組みを確認しようと開かれた。2008年から口腔医学の新しい教育システム構築に取り組む福岡歯科大など8大学をはじめ、国内外から大学教授や医者ら約260人が参加した。

口腔医学の国際シンポジウムに参加した研究者ら

基調講演した福岡歯科大の田中健蔵理事長(88)は、糖尿病や動脈硬化などが口腔疾患と関係があることを指摘し、「口腔医学の研究者は全身疾患についても適切な知識が必要」と述べた。今後の口腔医学の在り方については、「一般医学の専門分野として位置づけ、それぞれのギャップを埋めて統合していくべきだ」と強調した。